

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)。

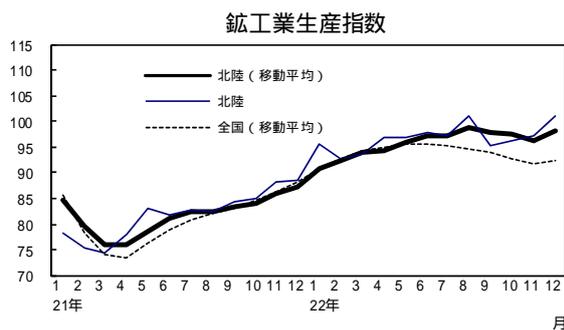
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年11月)	今回(平成23年2月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、自動車産業向け金属工作機械や、海外向けの建設機械等が引き続き堅調に推移している。電子部品・デバイス、秋口からの在庫調整により、全体では減少している。化学は、医薬品が高水準で増加している。金属製品は、ほぼ横ばいで推移している。繊維は、衣料向けの機能性素材が好調だが、エコカー補助金終了により、自動車内装向け繊維製品が不調で、全体では減少している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

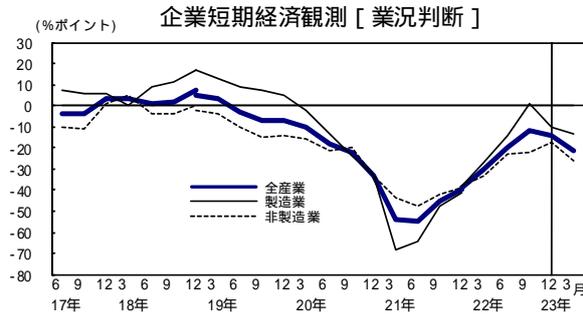
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	16.2	1.4	6.4	-	-
電子部品・デバイス	15.8	2.0	1.6	-	-
化学	14.5	0.0	3.2	-	-
金属製品	9.2	3.9	0.4	-	-
繊維	8.5	2.9	2.3	-	-
鉱工業	100.0	0.7	0.3	-	-

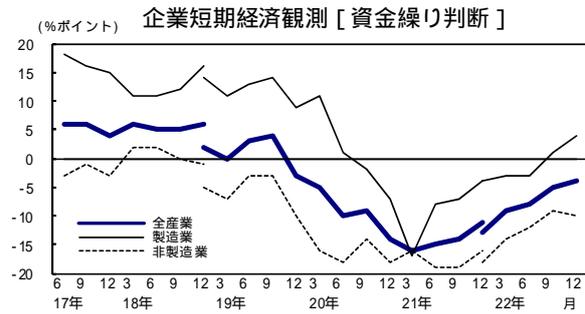
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

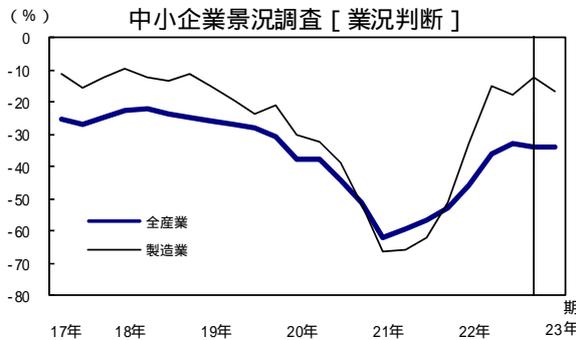
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(12月)[企業動向関連(現状)]

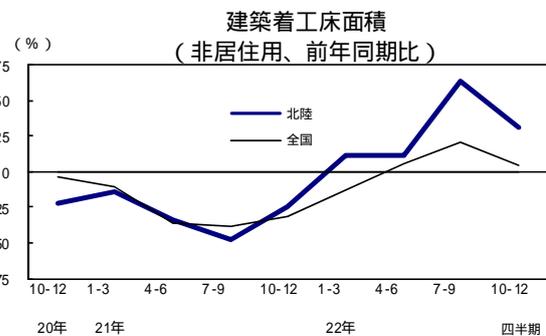
「衣料関係は春物が最終受注の追い込みのため、堅調に推移している。非衣料関係は前月比横ばいである(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	33.4	22.7(0.5)
製造業	35.6	31.0(0.9)
非製造業	28.6	0.5(1.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

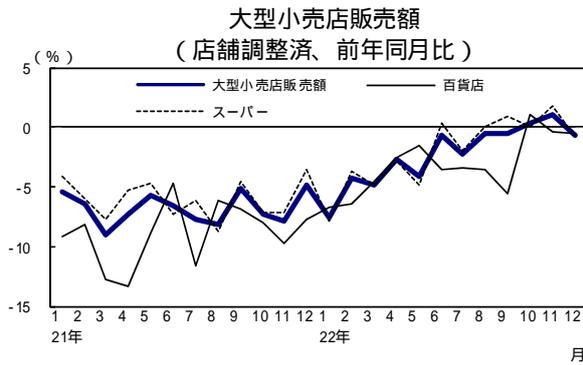
(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額

百貨店は、10月は、衣料品がコート類に動きがみられたほか、一部店舗での企画セールや会員向け招待会等が奏功し、前年を上回った。11月は、主力の衣料品については、気温低下によりコートや肌着の販売は好調であったが、アウター類の動きが鈍く、前年を下回った。食料品は歳暮が好調だったものの、物産展の不振から前年を下回った。12月は、食料品については、歳暮やおせち等の季節商品を中心に堅調に推移したものの、衣料品については、気温が中旬まで高めに推移した影響から、一部冬物の動きが鈍化したため、前年を下回った。スーパーは、10、11月に冬物衣料が好調だったことや、食料品でも、冬物食品が好調だったことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(12月)[家計動向関連(現状)]

「来客数は現状維持で動いている。そのなかで1品単価については下げ止まり傾向にあるが、安いからといってそのまま購入する状況はなくなり、売上についても横ばいである(スーパー)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

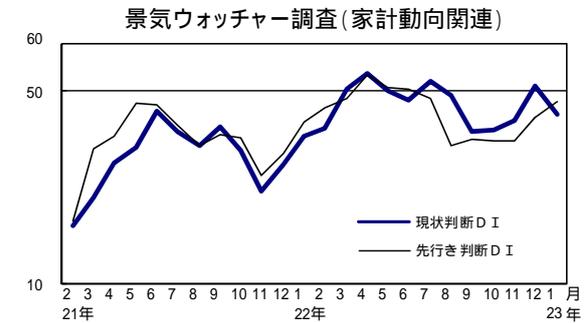
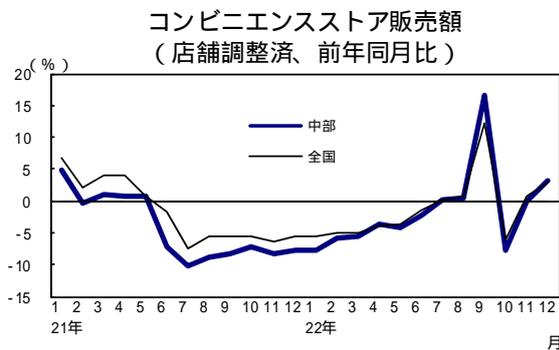


	(前年同期比、%)			
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	5.8	2.5	1.2	0.2
百貨店	5.9	2.6	4.1	0.0
スーパー	5.7	2.5	0.3	0.2
乗用車	23.6	24.2	13.1	29.2
景気ウォッチャー	44.5	50.6	47.5	45.6

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

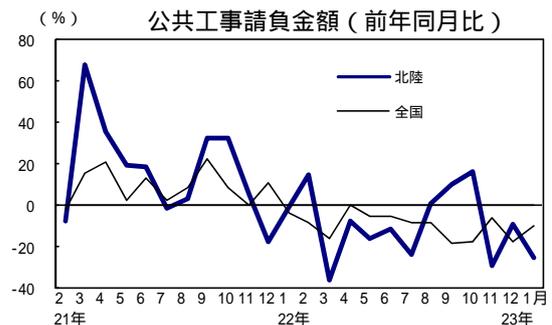
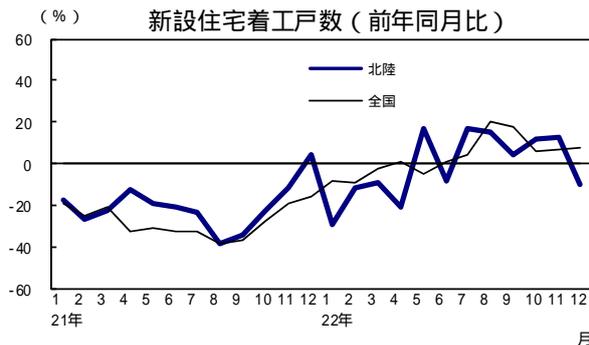
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家で前年を下回ったものの、持家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

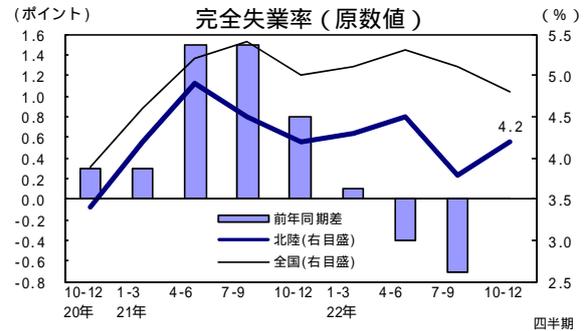
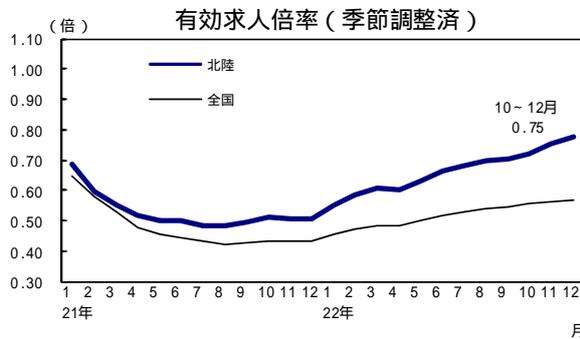


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (12月) [雇用関連 (現状)]

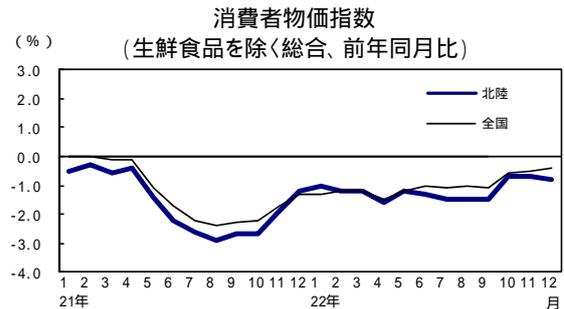
「年末、年始にかけての季節的な要因の求人増はあるものの、従来と同様に業務量の増加に伴う求人は少ない (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少しており、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
倒産件数	81	74	100	77	27
(前年比)	30.8	28.2	6.5	34.2	12.9
負債総額	291	143	307	282	72
(前年比)	48.5	31.7	27.1	31.1	41.3



景気ウォッチャー調査 (12月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今月に入ってから、売上は前年同月比 105%から 110%と好調を維持している。ホットドリンクの伸びが予想をはるかに上回っている。たばこは単価が上がったことで前年を大きく上回っている (コンビニ)

<先行き>

・衣料関係は春物が最終受注の追い込みのため、堅調に推移している。非衣料関係は前月比横ばいである (繊維工業)

